

一般質問

官民一体で  
佐渡振興を



本間千佳子 議員

**質問** 職員個々が自分の住む地域に飛び込んでこそ、官民一体の佐渡振興となつて、示された「行政組織」が生かされてくると考えるが、約1700人いる市職員の各集落における居住状態を問う。

**市長** 職員の居住実態は、ほとんどの集落に居住しており、職員数は人口の順になっている。積極的に地域住民とふれあい、市と地域をつなぐ身近な窓口になることは当然であり、地域において能力を發揮することは佐渡市全体の活性化になる。職員が地域に入れば縦割の弊害がなくなると思つている。

「佐渡版画村美術館」を育て、文化芸術の振興を

**質問** 「はんが甲子園」には商工振興費から補助金550万円、ふるさと振興事業費から146万5000円が充てられ「日本アマチュア秀作美術館」には平成16年度に1546万円が予算計上されているのに対し、「佐渡版画村美術館」は志し高く市民の活力になつているが、運営に危惧の念を抱いている。さらに、島民の芸術作品を最大限に活用し、癒やし・医療・介護予防へと「芸術療法社会」の構築を求めるが見解を問う。

**教育長** 社団法人「佐渡版画村美術館」は、故高橋信一先生が各地で活動する版画グループと一緒に、昭和59年相川裁判所跡に開設したものであり、活動は評価している。社団法人であり、佐渡市として



佐渡版画村美術館

では管理運営していないが土地・建物は市の所有で無償提供している。芸術療法については、市立病院においても絵画・版画・はり絵など展示している。

**生涯学習課長** 入館者は確かに減つている。当時は大勢であり、版画実習は建物内では足りなく、他を借りていた。経済支援は即答しにくいので、事情を聞かせていただいでから対応したいと考えている。

少子高齢社会は足もとの政策が大切

**質問** 女性市民より、「授乳室が欲しい」の声が寄せられている。抜本的な子育て支援が求められている折り、足もとの政策に目を向ける必要があると考えるが。

**市長** 「授乳室」の声は聞いている。庁舎内では宿直室を使うなどの対応をしているが、適切な部屋に案内する等指示を徹底する。

**質問** 高齢社会に対応した市営住宅の申し込み制度を早急に見直す必要があると考えるが。

**市長** 住宅入居の手続きにある保証人連署の問題は、状況を判断して行う。住宅使用料滞納の対策から保証人2人を求めざるを得ないが、生活困窮者・弱者については配慮したい。